

2月22日(土)

10:30 映画「立候補」  
13:30 台湾アイデンティティ  
15:45 デイア・ピョンヤン



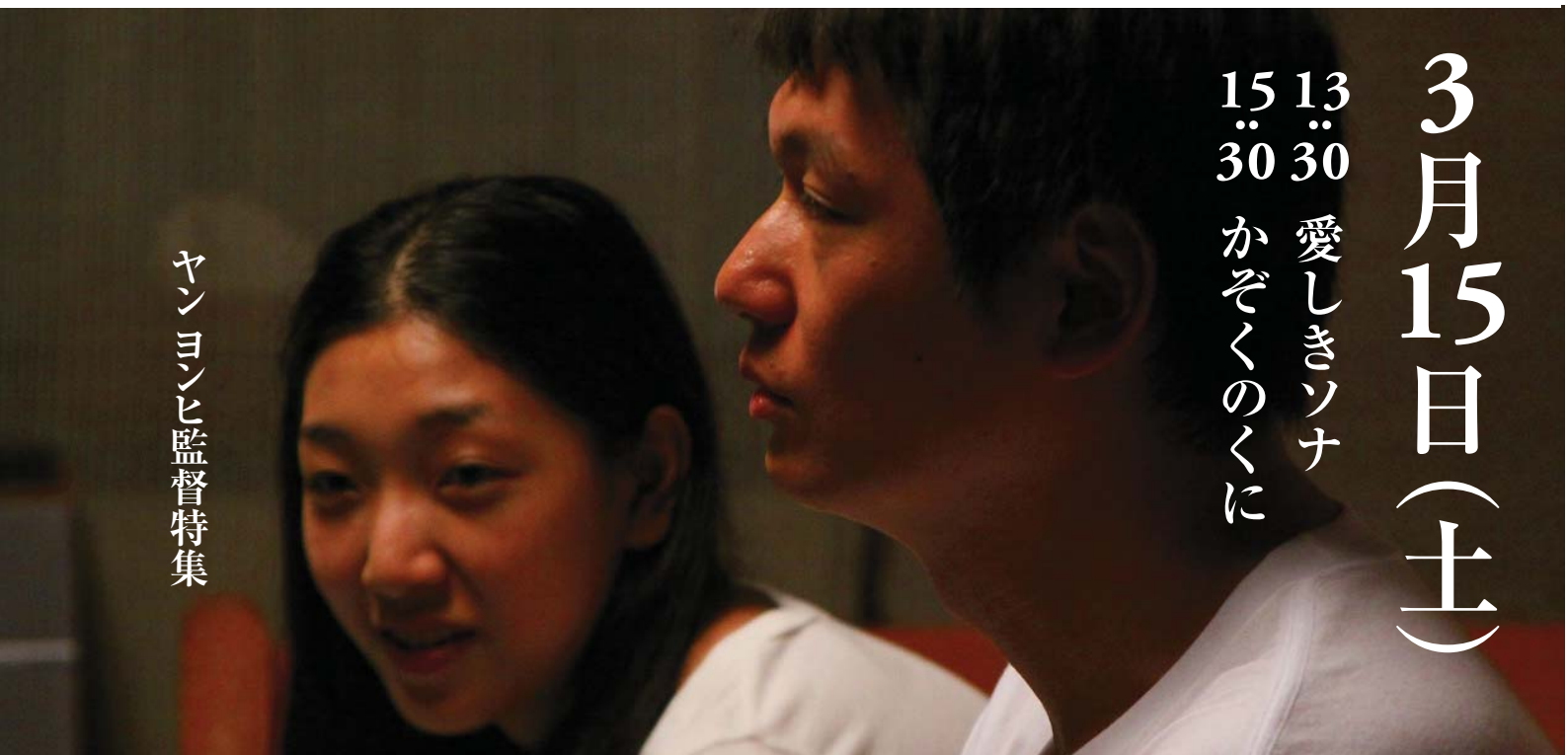
東アジア最前線 — 日本、台湾、北朝鮮

# harappa映画館 ドキュメンタリー最前線 2014

3月15日(土)

13:30 愛しきソナ  
15:30 かぞくのくに

ヤンヨンヒ監督特集



# harappa映画館 故郷とは、家族とは

ゲスト ヤンヨンヒ 監督

[チケット]

前売 1000円 当日 1200円 会員 500円  
1作品ごとにチケット1枚必要です

弘前中三、コトリcafe(弘前市立百石町展示館内)  
紀伊國屋書店 弘前店、まちなか情報センター  
弘前大学生協

[会場]

弘前中三8F スペースアストロ



「平成25年度弘前市市民参加型まちづくり1%システム」対象事業  
主催・問合せ/NPO法人harappa 0172-21-0195 post@harappa-h.org



## 東アジア最前線 一

東アジアは、今、ただならぬ緊張の渦中にある。しかし、その緊張は「今」に始まったものではない。

台湾が、50年の長きにわたり日本の統治下にあったことを知っているだろうか。その時、そして今、かつて日本人だった台湾の人たちはどんな思いを胸に秘めているのだろうか。『台湾アイデンティティー』は、私たちの知らない台湾の埋もれた歴史を明らかにする。

一転、『立候補』は、現在ただいまの民主主義国家、日本を照らし出す。泡沫候補といわれる一群は、なぜか滑稽だ。無視される、帰れ帰れのシュプレヒコールまで浴びせられる。それでも彼らは挑戦する。いつしか、日本という国が浮かび上がってくる。

2月22日の最終回と3月15日は、ヤンヨンヒ監督の3部作を一挙上映する。ピョンヤンと大阪に別れ別れとなった家族を描く、監督のセルフドキュメンタリー『ディア・ピョンヤン』『愛しきソナ』、そして劇映画にと昇華された名品『かぞくのくに』をお届けする。国家、故郷、家族、それらの意味を問いかけるこの3本をお見逃しなく。

以上、東アジア最前線の映像に目を凝らしていただきたい。

ゲスト 3月15日の上映会のみ

ヤンヨンヒ  
(梁英姫)



1964年大阪生まれの在日コリアン2世、米国NY・ニューヨーク大学大学院メディア研究学科修士号取得。高校教師、劇団女優、ラジオパーソナリティを経て、ドキュメンタリーの世界へ。

2005年、自身の父を主人公に家族を描いた初の長編ドキュメンタリー映画『ディア・ピョンヤン』を発表。

2009年、自身の姪の成長を描いたドキュメンタリー映画『愛しきソナ』を発表。

2012年、初の劇映画となる『かぞくのくに』を発表、同年夏より日本公開となり、アカデミー賞外国語映画賞日本代表選出を皮切りに、多くの国際映画祭に正式出品、複数受賞するなど高い評価を得ている。

また、最新著作に映画『かぞくのくに』の原作本に当たる「兄～かぞくのくに」(2012/小学館刊)がある。



# ドキュメンタリー最前線2014 / 2月22日(土)

## 映画「立候補」



© 2013 word&sentence

監督：藤岡利充

(2012 / 日本 / 100分 / blu-ray)

2月9日には、東京都では新しい知事が決まっている。弘前でも市長選挙がそろそろだ。

選挙にはしかし、勝てる見込みはゼロの候補者たちという一団もいる。ヤジを浴びせられ、帰れコールにもめげずに街頭に立つ彼らを見ているうちに、おかしいけれどもちょっと気になる、そしてう〜んと唸り出す。選挙とは、民主主義とは一体なんだろうという？マークがおのずと心に浮かんでくる、そんな新たなドキュメンタリー映画の登場である。

## 台湾アイデンティティー



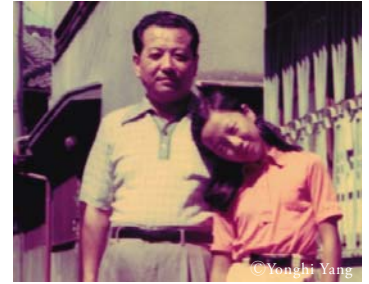
© 2013 マグザム / 太秦

監督：酒井充子

(2013 / 日本 / 102分 / blu-ray)

台湾には「日本語世代」と呼ばれる高齢の人々が存在する。日本の統治下にあった、日清戦争後から太平洋戦争終戦までの半世紀に、日本語教育を受けた世代だ。酒井充子監督は『台湾人生』に続いて、日本語世代の6人に密着する。日本の統治時代に対する彼らの思いは、同じように日本に併合・統治されていた朝鮮半島の人々の思いとは対照的だ。6人が語る台湾の過酷な戦後史と苦難の人生は、日本に対する彼らの思いが、「敵の敵は味方だ」という屈折したものだったことをあぶりだす。

## ディア・ピョンヤン



© Yonghi Yang

監督：ヤン ヨンヒ

(2005 / 日本 / 107分 / blu-ray)

大阪生まれの在日コリアン2世ヤン ヨンヒの監督第1作。「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2005」アジア千波万波部門特別賞。両親は朝鮮総連の幹部として一生を「祖国」に捧げ、3人の兄たちは帰還事業で北朝鮮に「帰国」してピョンヤンで暮らす。家族は離散状態にある。なぜ両親は息子たちを帰国させたのか？なぜここまで祖国に忠誠を尽くすのか？彼女は、朝鮮総連活動家の父にカメラを向ける… 10年にわたって記録された、親と子の別れから和解へ至る家族の物語。

# 故郷とは、家族とは / 3月15日(土)

## 愛しきソナ



© Yonghi Yang

監督：ヤン ヨンヒ

(2009 / 韓国・日本 / 82分 / blu-ray)

「私は東京で暮らしている / 韓国出身である私の両親は大阪で暮らしている / 私の3人の兄はピョンヤンで暮らしている / 私にはピョンヤンに姪がいる」。その姪の名をソナという。愛するソナ、かわいいソナ。

ホームムービーの中に映し出されるソナとその家族、そして監督である私は、いつしか北朝鮮と日本という国そのものを意識せざるを得なくなる。

近くて遠い二つの国をつなぐ強い絆と深い愛をめぐる、可笑しくも切ない家族の物語。

## かぞくのくに



© 2011「かぞくのくに」製作委員会

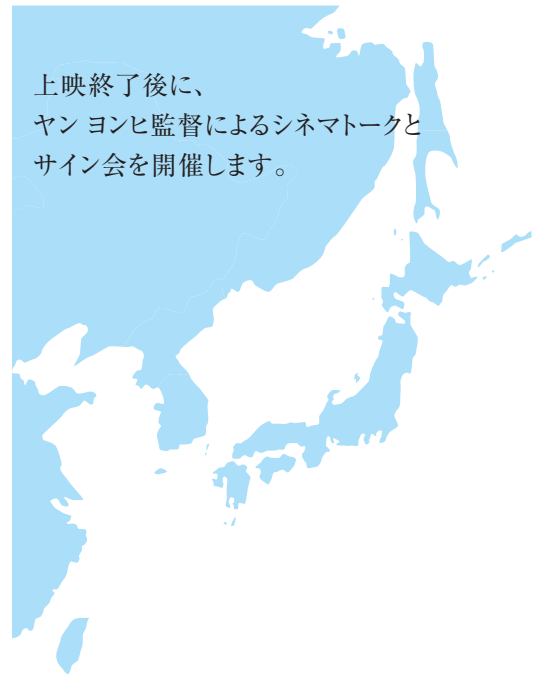
監督：ヤン ヨンヒ

(2012 / 日本 / 100分 / blu-ray)

父が在日朝鮮人の同胞協会の幹部を務める在日コリアンのリエ（安藤サクラ）には、帰国事業で北朝鮮に渡った兄ソンホ（井浦新）がいる。その兄が、脳腫瘍の治療のため3ヶ月の期間限定で一時帰国する。久々の再会にリエや家族はソンホを温かく迎え入れ、ソンホは旧友たちとも再会を果たすが、彼の行動はつねに監視されていた…

帰国事業に翻弄される在日コリアンの家族の現実を、監督自身の実体験をもとに描き切った劇映画第一作。

上映終了後に、ヤン ヨンヒ監督によるシネマトークとサイン会を開催します。

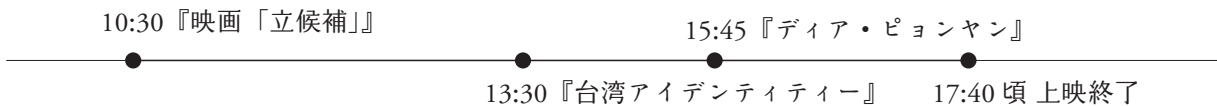




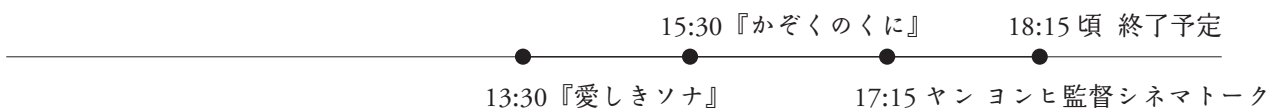
映画「立候補」より

## タイムテーブル

2 / 22 sat / ドキュメンタリー最前線 2014



3 / 15 sat / 故郷とは、家族とは



## チケット

前売 1000 円 当日 1200 円 会員 500 円 (1 作品ごとに 1 枚チケットが必要です)

◎チケット取扱店

弘前中三、コトリ cafe (弘前市立百石町展示館内)  
紀伊國屋書店 弘前店、まちなか情報センター  
弘前大学生協

◎チケット予約 npo harappa

お名前、電話番号、メールアドレス、希望枚数 (2 月、3 月どちらか) を、電話または E-mail にてご連絡の上、ご予約ください。

TEL. 0172-31-0195 E-mail. post@harappa-h.org

## 会場 / 駐車場

弘前中三 8F・スペースアストロ 青森県弘前市土手町 49-1

お車でお越しの方は、中三指定駐車場 (中三御徒町駐車場、ナカサンパーキング一般有料駐車場) をご利用ください。無料サービスとなります。上映会場受付にて駐車券をご提示ください。